

報道資料

山口情報芸術センター／YCAM InterLab 開館展

「メディア・ソケッツ～多層なる創造圏」

In Media Sockets: Realities brimming over media sockets

山口情報芸術センター（YCAM）では、今後多方向の進展が予想される情報化社会に向けて、芸術と科学、産業、教育などの領域横断的な連携によるクリエイションを、積極的に試みていきたいと思えます。

さらに、「創造の理解」「創造の方法」「創造の環境」に重点を置き、パフォーマンスアート、ビジュアルアート、サウンドアート、インフォメーションアートなど、各々に対応した機能のスタジオ、メディアラボを併設する YCAM の特徴を最大限いかし、国際的文化貢献ともなりうる、多様な芸術ジャンル間の領域横断的なオリジナルのクリエイション（芸術的成果）を生み出していきます。その活動のための中心セクションが「YCAM InterLab（ワイカムインターラボ）」※です。

開館時には、「YCAM InterLab」プロジェクト第1弾として、国際的に活躍する国内外の6組のアーティスト [岩崎マミ、堀家敬嗣、るさんちまん、exonemo (エキソニモ)、中居伊織、ウォルフガング・ミュンヒ+古川聖] が、新作によって参加する YCAM InterLab 開館展「メディア・ソケッツ～多層なる創造圏」を11月1日（土）～12月28日（日）の会期で開催します。展示は、館内公共スペース各所を使ったもので、開館時間内（10:00～22:00）はいつでも体験鑑賞（入場無料）することができます。

「メディア・ソケッツ」のコンセプト

「情報」と「芸術」の関係性の歴史的意味と創造性を提案するコンセプトから、「メディア・ソケッツ～多層なる創造圏」では、複製技術以降のメディア；人間が直接何かの表現行為を行わず、何らかの光学機械、聴覚機械、電子装置、コンピュータなどを介在することで、はじめて出現・創発させることができる芸術表現のパースペクティブに焦点を当てます。

現在の文化状況の中で、メディアと表現は、より情報化が進むにつれ多様かつ多層に影響し合いながら、われわれの身体知覚や思考の編集を革新する感覚の新たなフィルターを通じて、メディアの地層といえる

ような包括的な圏闘（スフィア）をわれわれに差し出しています。単独にそれだけでは機能せず、なんらかのアクションがあることで、大きく変動をはじめめる圏闘を称して、マクロなメディア・ソケットと呼んでもよいでしょう。またその一方で、情報化社会をインフラとして支える IC ソケットのような、ミクロなネットワーク機能の進展を忘れることはできません。物質的な、または情報的なメディア・ソケットに接続し、アジャストすることの芸術欲求や創造性。問いを一步進めるなら、メディアがソケットなのか？、あるいは人間がソケットなのか？ そして新たなソケットはどのように生まれてくるのか。その意識的、意識下の形づくられていく重層決定的なリアリティをめぐって、複数のアーティストが様々なメディア表現をベースにしながらアプローチを行います。

複製技術以降の表現メディアと公共スペース

「メディア・ソケット～多層なる創造圏」では、具体的には、写真から、映画、電子映像・サウンド、コンピュータによるインタラクティブアートまで、現在の文化を形作る様々な複製技術以降のメディアを通じた芸術表現を展望するものです。それぞれが異なった視座からアプローチする新しいリアリティと表現によって、個々のメディアと多層なるメディア、双方に対する批評的思考のプロセスを体現できる作品展示をめざしています。

さらに今回の展示では、公共スペースを、表現メディアの支持体でありまた喚起的要素と発想し、YCAMの館内公共スペース（スタジオ B を含む）のいたるところに、特別なパテーションをせず、各インスタレーションを配置することで、公共スペースとメディアのアウトプット（イメージやサウンド）の新しい関係性について、提案を投げかけるものになっています。（「OPEN!ポスタープロジェクト」では、都市そのものも、作品と人々との対話の舞台となります。）

※ YCAM InterLab（ワイカムインターラボ）とは

YCAM InterLab では、企画展、レクチャー、ワークショップ、研究会など様々なアウトプットによる活動を展開する予定です。それらの実践を通じて、新しいコンセプトの制作方法やコラボレーション、ソフトウェア&ハードウェア開発、インターフェイスデザイン、展示形態など、最先端の情報通信技術、メディアテクノロジーの動向の探求と蓄積をおこないます。さらにその成果を、地域全体の情報リテラシーの活性化と文化の発展、新しい教材の提供・普及など、従来の枠をこえた新しいシナリオづくりへと展開します。また実験的芸術作品の創造によって、新たなアートシーン形成に寄与し、国際文化交流に貢献します。

参加作品紹介

■ 岩崎マミ

『Ladder』(2003)

[アムステルダム、ベルリン、ブラッドフォード、イーストブーン、茨城、ロンドン、マンチェスター、シンガポール、栃木、山口] (写真インスタレーション)

イギリス、オランダ、シンガポール、ドイツ、山口を含めた日本の各都市を、写真によって、多様な距離感から切り取った作品。展示空間内で、複数のイメージが組み合わせられ、相互に干渉しあうことで、複雑なレベルの要素が交換され、空間全体が無国籍的な共通点を持つ、想像的な1つの場所であるかのような、新しい感覚を呼びおこしていきます。写真と現実、写真と写真の多層な相関を再考させてくれる空間です。
(本展のための新作を含みます) 協賛：キヤノン株式会社

* 開館記念特別企画として、山口市内を舞台に、山口で働く若者たちのポートレートを、岩崎マミがアートポスターとして撮影、市内各所で公開していくパブリックアート「OPEN! ポスタープロジェクト」を同時におこないます。この「OPEN!」は、YCAMオープンの意味だけでなく、オープンマインド、オープンチャンネルなど、多義的なオープン性を都市の内部や市民に呼びおこしていくものです。

■ 堀家敬嗣

『OZU style』(2003)

(動画論文：映像音響インスタレーション)

今年生誕100周年を迎える巨匠小津安二郎監督(1903-1963)へのオマージュとなる動画による研究論文。小津監督の戦後制作された全15作品を、巨大な1作品のように見なし、メディアアーカイブ的な視点から、通常では見ることのできない斬新なアイデア(第1作品の第1ショット、第2作品の第2ショット…という風に順繰りに並べ、未見の作品を再構成する)で再配列したものです。ストーリーの流れの中からは見過ごされていた、小津作品の1ショットのもつ魅力や巨視的なリズムの深さを再発見し、同時に映画という思考のツール=メディアを切り開いた小津監督の視線の在りか、映画的無意識に、想像をめぐらせます。

(本展のための新作)

■ るさんちまん

『第9回「る会 ～生きション～」作品1』(2003)

『第9回「る会 ～生きション～」作品1』(2002-2003)

(映像音響インスタレーション)

天体観測用のトラッキングレンズにCCDカメラをドッキングして作られたオリジナル撮影装置によって、

おだやかな草原が延々と映し出されます。しかし一瞬見えるものは『?』。カメラという新しい目が、動き回る対象をオートマティックに捉えようとしはじめた時、ターゲティング・テクノロジーとしてのメディアと技術の歴史が大きく変わりはじめたことを示唆する作品です。別のもう1つの新作では、センターの回廊空間をそのまま映像表現ベースと見立てて、そこに斜めに歪んだ映像プロジェクションすることで様々なフォーカスが生まれ、同一の映像の中に非均一の空間と映像の偏差が形成されます。映像の歪みを修整するのではなく、創造性と考えることで、既存の回廊が、遠近法を超えて映像がいきかう交通空間へと変容します。

(『第9回「る会 ～生きション～」作品1』が本展のための新作)

■ exonemo

『VHSM: Video/Hack/and/Slash/Mixer』(2003)

(映像音響インスタレーション) [制作協力: クワクポリョウタ]

オリジナルな加工が施された3台のビデオプロジェクターを、1つの画面に3重露出(オーバーラップ)させて、まったく新しい画面と音の知覚体験を実現します。エキソニモの作り出した、各プロジェクションが1秒間に再現するコマ数をアナログチューニングで可変できるシステムは、われわれの日常の認識知覚の同一性(=映像のコンティニューイティと意味生成の関係)とは何かを問いかけます。これは映像経済学的科学的アプローチと、スケボーやDJ/VJといったストリートカルチャーのもたらす、動く身体からの速度と知覚の凝縮とザッピングの、融合からもたらされたリアリティといえるでしょう。RGBの分解映像を交え、センターを行き交う人の風景映像から、生物の生態映像、過去の山口市の記録映像まで、多彩なデジタル映像アーカイブソースを自動制御技術でコントロールします。

(本展のための新作)

■ 中居伊織+scapegirls(市民によるチーム)

『personalscape』(2003)

(音響ミクストメディア装置)

インタラクティブ・ディスプレイをペンでなぞることによって、「ひと」が日常的な生活を通して聴いている現象としての音を追体験できる作品装置です。街の風景から個人の風景へ。それが音だけで再現された時、何が想像されてくるのでしょうか。しかも同じ時刻(厳密にある日の1時間)を共有している他の9人の聞く音の風景を、同時並行にポリフォニックなザッピングとして聞くことができるとしたら。街の音景を「streetscape」として作品化した中居伊織が、今回YCAM開館記念にあたり、山口市民によって結成されたプロジェクトチーム「scapegirls」(市民公募)との、7か月間のワークショップを経てコラボレーションした作品を初公開します。

(本展のための新作) 協賛: 株式会社ワコム

■ ウォルフガング・ミュンヒ+古川聖

『Bubbles (バブルズ)』(2001-2003)

『OBAKE (オバケ)』(2003)

(インタラクティブ・インスタレーション) [テクニカルアシスタンス：今井慎太郎]

手で影をつくると、きゃ〜！ おばけはやってきます。

おばけは ふにゃふにゃ！

ゆっくりと 手をうごかしてみてください！

双方向的、対話的といわれるコンピュータの作り出す映像や音と、観客のインタラクションによって展開していく作品。ここでは映像上でシャボン玉が降ってくる「Bubbles」と、影絵に付随して出てくるファンシーなキャラクターとの対話を作り出す「OBAKE」の2作品が体験できます。

「Bubbles」は、背景の巨大な壁に人影が映ると、落下する映像のシャボン玉がその人の存在に影響されたかのように、風でなびいたり、跳ねたり、飛び散ったりします。

「OBAKE」は、影絵用のスクリーンに手をかざすと、自分自身の影だけでなく、その影の上に新しい様々なヴァーチャルキャラクターの映像（かわいいオバケ）がいろいろ登場します。手の影の動きに、友人のように反応してくるかわいいオバケたち。彼らの性格をまずは探し出してください。対話のプロセスによって彼らは学習成長していくかもしれません。

(「Bubbles」は音響改訂新版、「OBAKE」は一般初公開／協力：IAMAS)

アーティスト・プロフィール

岩崎マミ（いわさきまみ）

写真作家。1973年茨城県生まれ。東京都在住。

1994年東京工芸大学短期大学部写真技術科卒業。1998年ブライトン大学（イギリス）アート・デザイン・人文学部エディトリアル・フォトグラフィー学科卒業。1998年第18回「キヤノン写真新世紀」優秀賞を受賞。2001年第1回「アートのスカラーシップ 2001」入選。2002年シンガポール・アート・フェスティバル（シンガポール）に参加。東京、ニューヨーク（USA）、ロッテルダム（オランダ）などの国際グループ展に参加。

堀家敬嗣（ほりけよしつぐ）

映像作家および映像研究者。1966年岐阜県生まれ。山口市在住。

成城大学文芸学部卒業後、日本IBM勤務を経て、成城大学大学院文学研究修士課程および東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了。IAMAS（国際情報科学芸術アカデミー）在籍後、東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。1998～1999年東京大学総合研究博物館「デジタル小津安二郎——カメラマン厚田雄春の視」展の企画・運営にたずさわる。現在、山口大学教育学部常勤講師

るさんちまん

2人組によるアート・ユニット。2000年より活動開始。大阪府在住。

四国お遍路の旅で出会った人から聞いた言葉「生きション」が、その後の展覧会、プロジェクト、ライブ・パフォーマンスのタイトルとなる。第1回「る会～生きション～」(2000年)以降、国内外の展覧会で「る会～生きション～」シリーズを発表する。

exonemo（エキソニモ）

千房けん輔と赤岩やえによる2人組アート・ユニット。1996年よりwww.exonemo.com上で活動を開始。東京都在住。

主にウェブ上でしか体験できない実験的プロジェクトを数多く手がけている。また、2000年以降は、アルスエレクトロニカ（オーストリア）、イスタンブール・ビエンナーレ（トルコ）、など、国内外の展覧会でインスタレーション作品も発表。2002年アルスエレクトロニカ（オーストリア）のエレクトロ・ロビーにおいて国際プロジェクトKOP（Kingdom Of Piracy）に参加。2003年広島市現代美術館にてソロワークショップ&展示「サイバー・アジア・ワークショップ～ニューファンクション」を開催。

中居伊織（なかいいおり）

メディアアーティスト。1980年愛知県生まれ。名古屋市在住。

IAMAS（岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー）卒業。2001年「streetscape 京都版」が好評を博し、同年フランスで

も「パリ版」を出展。現在までに、「streetscape」を7都市にて制作・展示。2002年NHK-BS「デジスタアワード年間グランプリ」受賞。2003年アルスエレクトロニカ（オーストリア）の国際グランプリ佳作受賞および展示参加。

ヴォルフガング・ミュンヒ (Wolfgang Muench)

メディアアーティスト、プログラマー。1963年カールスルーエ（ドイツ）生まれ。カールスルーエおよびシンガポール在住。

シュトゥットガルト国立美術大学院（ドイツ）とウィーン応用美術大学（オーストリア）で美術を学び、1996年からカールスルーエのZKM ビジュアルメディア研究所をベースに活動する。その間、インタラクティブな情報システム「パノラミック・ナビゲーター」などソフトウェアの開発や「アート・インタクト」、「デジタル・アーツ・エディション」といったシリーズの制作を行う。1997-2002年シュトゥットガルトのメルツ・アカデミー（応用美術大学）でインタラクティブ・メディア部門講師。現在、シンガポールのラサール・シー芸術大学のメディアアート部門主任講師。

古川聖（ふるかわきよし）

音楽家、作曲家。1959年東京生まれ。東京およびドイツ在住。

ベルリンおよびハンブルクの音楽アカデミー（ドイツ）でイサン・ユン、ジェルジ・リゲティのもとで作曲を学ぶ。1991年スタンフォード大学（USA）の客員作曲家。カールスルーエのZKM（ドイツ）のアーティスト・イン・レジデンス。ジーマンス・プロジェクト奨学金（1992、1993）、北部ドイツラジオ音楽賞（1994）など多くの賞を受賞。2000年アルスエレクトロニカ（オーストリア）で「SMALL FISH TALE」初演。2001年「Bubbles」（W.ミュンヒと共同制作）がZKMコレクションとなる。2000年より東京芸術大学先端芸術表現科助教授。

概要

山口情報芸術センター／開館記念事業

YCAM InterLab 開館展

「メディア・ソケッツ～多層なる創造圏」

In Media Sockets: Realities brimming over media sockets

参加アーティスト：

岩崎マミ、堀家敬嗣、るさんちまん、exonemo (エキソニモ)、中居伊織、

ウォルフガング・ミュンヒ+古川聖

キュレーター：阿部一直 (YCAM)

会期：2003年11月1日(土)～12月28日(日)

(火曜休館 ※ただし11月4、11、18日は開館)

開館時間：10:00～22:00

場所：山口情報芸術センター館内各所

入場料：無料

ホームページ：<http://www.ycam.jp/>

主催：財団法人山口市文化振興財団

共催：山口市、山口市教育委員会

後援：山口県、山口県教育委員会、財団法人山口県文化振興財団

協賛：キャノン株式会社、株式会社ワコム

制作：山口情報芸術センター、YCAM InterLab

お問い合わせ

山口情報芸術センター (広報：小瀧)

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216

EMAIL: info@ycam.jp